

令和2年1月22日（水）
第6回社会資本整備審議会計画部会
交通政策基本計画小委員会
第6回交通政策審議会交通体系分科会計画部会
交通政策基本計画小委員会 合同会議

令和時代の地域公共交通制度に 必要な施策と覚悟とは

—地域公共交通における
「協働」の課題と展望—

福島大学経済経営学類准教授
村上早紀子

1. 平成時代の地域公共交通を振り返る

地方都市における課題

- ◇民間事業者によるビジネスが
成立し難い地域の存在
- ◇地域公共交通を支える財源が
厳しい状況
- ◇自家用車分担率の高さ
- ◇免許返納後の移動手段の欠如
- ◇平成の大合併により、集落が分散
した地域を抱える市町村も多い

国土のグランドデザイン2050

「コンパクト・プラス・ネットワーク」



人口減少や高齢化が著しい中山間地域においては
住民が主体となり地域運営組織を形成し、地域に
合った生活サービス機能や交通ネットワークを
確保することで、分散している生活サービスや
地域活動をつなぎ・・・（以下略）

地域公共交通と連携したコンパクトな
まちづくりを進めていく上で必要となる
「協働」「住民主体」！？

しかし「住民主体」の認識は不十分？

◇地域公共交通網形成計画の記載例
「行政だけでは維持・運営が困難なため
住民やNPOなど地域が主体となった
交通サービス導入に向けて検討」

◇研究者の様々な主張
「住民主体や自治のコミュニティの力に
委ねるしかない」

具体的方法論や、運営組織に関しては
訴求力のない状況

2. 令和時代の地域公共交通のゆくえ

地方都市の公共交通の再編を図る上で
「協働」や「共助」を摯実に促進し
実践していくには、これらの趣意および
手法の明確な提示が必要

3点のケースを基に検証

(2 - 1) 地方都市の交通ネットワーク
形成における各主体の役割とは

富山県魚津市 民間バス会社による
11路線のうち9路線が廃止
⇒ 住民の移動の確保が課題に

2006年10月 郊外地対策型バス運行開始

全6ルートにて、NPO法人が
主体となった運行体制を確立
※ 2016年4月より全7ルートに

2015年4月 郊外地対策型バス
全ルート of 運行管理を事業者へ移管
⇒ NPO法人は全て解散

理由)

- 安全運行管理体制の懸念と負担
- 運行条件の地域間格差
(事業費1/3の収入は地域で確保
2/3は市で支援)

10年以上にわたる経験から得た転換

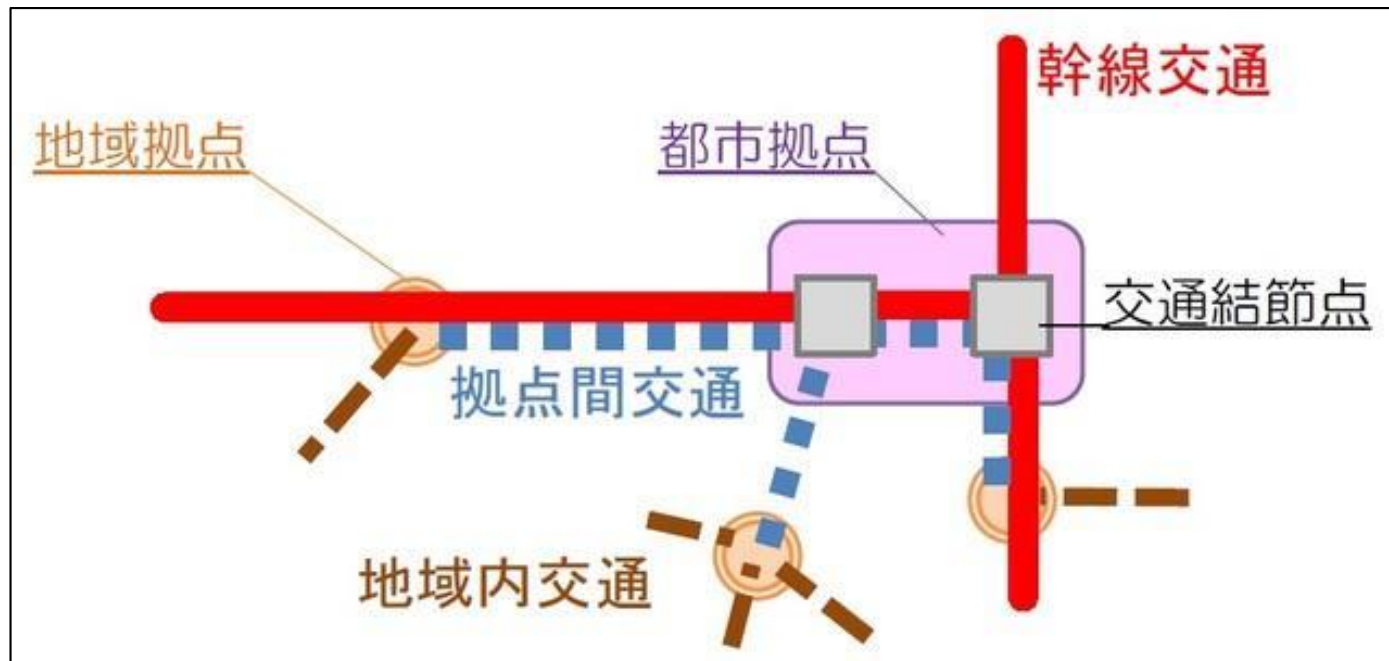
(2-2) 交通空白地域に生み出す 「交通」と「場所」

岩手県北上市

2017年6月 あじさい都市きたかみ

公共交通網形成計画

(北上市地域公共交通網形成計画)



2018年3月30日 北上市立地適正化計画
(あじさい都市きたかみ形成基本計画)

◇都市機能誘導区域および
都市居住区域の指定

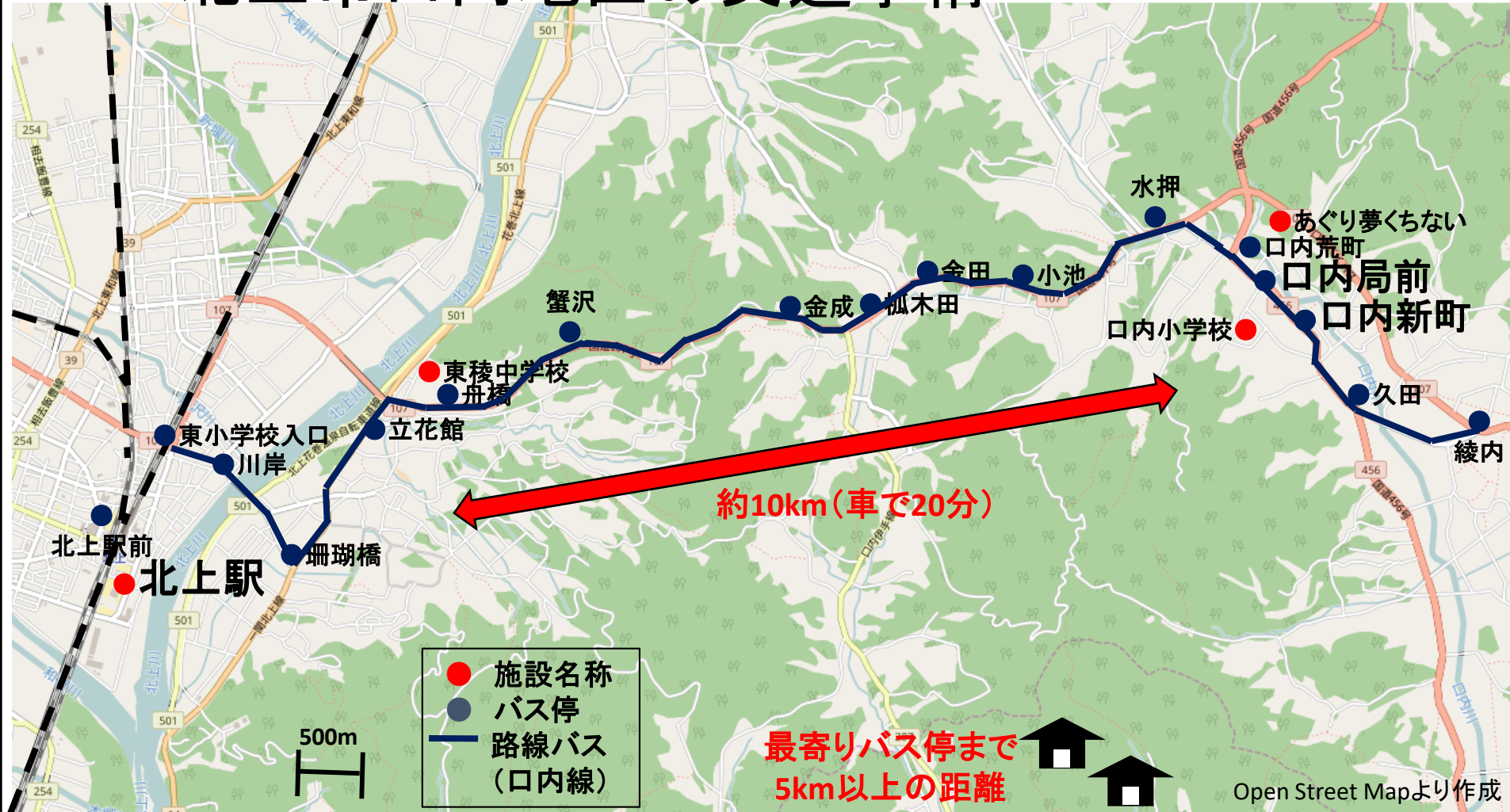
◇「地域拠点」の設定



市街地内のみならず、田園や里山の
既存集落でも、地域コミュニティを
維持した持続可能な地域づくり

こうした過程で、市内各地域で
自律的な花びらを単位とした取組が
生み出されている ※ 口内地区

北上市口内地区の交通事情



車を持たない高齢住民が
市街地に出掛けるには？

2009年 NPO法人くちない 設立

2010年 自家用有償旅客運送 開始
(口内有償ボランティア輸送システム)

【交通空白地・有償運送】

送迎先：口内地域内

料金：1回100円

【福祉有償運送】

送迎先：市街地の病院
市役所、銀行

料金：800～1,200円



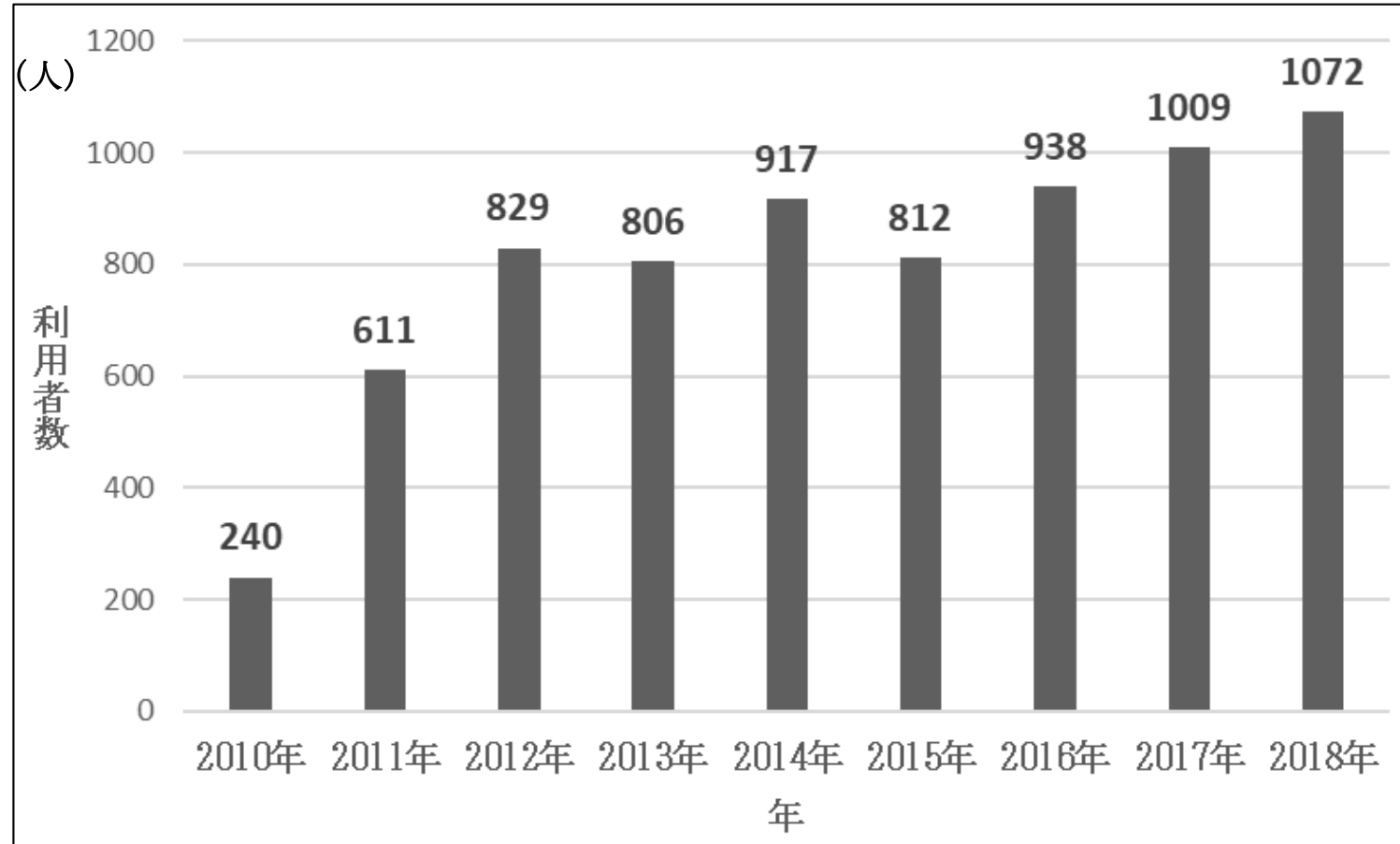


最寄りバス停まで
5km以上の距離

Open Street Mapより作成

既存の公共交通機関の利用へと接続
バスを維持・交通事業者と連携する仕組み

口内有償ボランティア輸送システム 交通空白地有償運送 利用者数の推移



「店っこくちない」の経営



店っこくちない



バス停「口内局前」

有償ボランティア輸送システム 利用者の声（2016年 戸別ヒアリング調査）

- バスに間に合うように送ってくれて助かる
- バス停まで昔は1～2時間もかけて歩いた
- 本当に助かる、死ぬまで世話になりたい

-
-
-
-
-
-

(2-3) 互助による交通ネットワーク
形成

北上市黒岩地区 住民による互助輸送
2019年10月より実証運行中

運行日 : ○おに丸号飯豊黒岩線運行日
○地域行事等の開催時

運行経路 : ○おに丸号 接続
(黒岩地域ターミナル)
○地域行事等への出席
(地区内の各会場)

実施主体 : 黒岩自治振興会

運行主体 : NPO法人あすの黒岩を築く会

経費補助 : 北上市

車両提供 : トヨタカローラ南岩手 (株)

3. 令和時代の地域公共交通を どのように育成していくか

- ◇地域公共交通ネットワークを描く上
での都市計画やまちづくりとの融和
- ◇自家用自動車有償運送制度の円滑化
導入における関係者との協議
- ◇運行の形態は適材適所
何をもって選択し実行していくか
- ◇「継続性」担保のための仕組みとは
運営組織の在り方(任意団体、法人化)
収益の確保における課題